愛される図書館を目指して

附属図書館長　陣　崎　克　博

Ⅰ.

30年近く前，私はフルブライト大学院留学生として，アメリカのペンシルバニア大学に留学していた。そのとき毎日のように利用した大学図書館のあまりの素晴らしさ，その果たしている役割の大きさに深く感銘し，また強い衝撃を受けた。その印象は，今も生々しい。以来，図書館は大学の顔であり，大学の研究教育の中心でなければならぬという信念は，ずっと変わらず抱き続けている。

その後も何度か訪滞米あるいは訪欧し，かの地の大学図書館の発展を詳（つまびらか）に観察する機会を得た。一方，わが広島大学附属図書館も，往時と比べるとずいぶん充実改善され，いろんな側面で見違えるほど良くなってきた。蔵書数二百数十万，電算化にも先駆的な役割を果たしてきた本学図書館は，現在でも全国有数の大学図書館であるが，新キャンパスでは現在の３倍以上の面積をもち，最先端の知識と技術を導入した新しい図書館に生まれ変わろうとしている。

改善すべき点は改善し，新旧両図書館ともに，全学の教職員・学生のどなたからも愛される図書館としたい。また，東広島市移転という好機を利して，広島大学図書館百年の計を目指し，日米の差をできるだけ縮めるよう努力したい，というのが私の抱負である。

Ⅱ.

図書館の恒常的な運営・サービスの改善は，利用者にとっても図書館職員にとっても，より良きまた無理のない改善でなければならない。両者の利害が一致する場合もあるが，相反する場合もあろう。両者の意見によく耳を傾け，じっくりと腰を落着け時間をかけて，両者にとって納得できる理にかなった解決策や突破口を見つけ，一歩一歩，少しでもより良い方向にもってゆきたいと念願している。

移転に関して言えば，早速，中央図書館第一期工事の実施設計ヒアリング・実施図面作成に続いて工事の着手，学習図書館（仮称）工事等の概算要求があり，重要案件が目白押しである。図書館内部は言うに及ばず，関係諸部局との連携を密にしながら，移転実施計画を進めてゆきたい。全学の皆さん，特に関係部局の方々の一体となったご支援とご協力を，図書館運営委員会の構成員及び図書館職員全員とともに，切にお願いしたい。

Ⅲ.

全学の皆さん，特に学生諸君は，図書館を大いに利用していただきたい。言うまでもないことだが，学生諸君は足繁く図書館を訪れ，本を読んだり借り出したりしてもらいたい。文献検索を行ったり，資料を使ってレポートや論文を書いてもらいたい。また教科書や専門書だけでなく，古今東西の古典や名著を読破し，先人の秀れた文化的遺産を継承してほしい。大学生の間に読書の習慣を身につけ，人間としての幅を大きく広げてほしいのである。

大学は決してレジャー・ランドではない。クラブ活動が本命ではない。いかに図書館を良く利用するかが大学生の本分である，と私は信じている。

Ⅳ.

結婚と同じように，図書館が愛されるためには，利用者と図書館関係者双方共に，努力が必要なのではないだろうか。